

8. 接ぎ挿しによるイチジク苗の育成方法（技術）			
[要約] イチジクは接ぎ木と挿し木が同時に行え（接ぎ挿し）、接ぎ木苗を容易に作ることが出来る。接ぎ方は切り接ぎが望ましく、10～15cm程度の台木に接ぎ木し、一般的な挿し木培地に挿すと容易に発根活着する。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	086-955-0276

[背景・ねらい]

県下の主要なイチジク産地において株枯病やいや地が発生して問題となっているが、最近、これらの障害に強い台木品種が選定され、40～50cmの長さの台木を用いた接ぎ挿し苗の自家育苗法が提案された。そこで、接ぎ木法、台木の大きさ等を検討し、効率的育苗法を確立する。

[成果の概要・特徴]

1. 接ぎ木方法別では切り接ぎの活着が最も優れた（表1、図1）。接ぎ木部の結束では絶縁テープを用いると作業が容易であった。
2. 挿し木用培地の種類は発根数に大きな影響を及ぼさなかった（表2）。
3. 穂木の長さは展葉数に大きな影響を及ぼさないので、6cm以上の長さでよい（データ省略）。
4. 台木の長さは長いほど発根が多くなりやすいことからできるだけ長くし、少なくとも10～15cmとする（図2）。
5. 接ぎ挿し後発芽するまで密閉しておけば灌水は不要である。
6. 株枯れ抵抗性を有する台木品種「セレスト、ボルディドネグロ、イスキア・ブラック」及びネコブセンチュウ抵抗性を有する「キング」を用いて「榊井ドーフィン」の接ぎ挿しを行った結果、どの台木でも80%以上が定植可能な苗となった（表3）。
7. 4月中旬に接ぎ挿しをしてハウス内で保温すると7月下旬には新梢が30cm近くに伸長し、定植が可能となった（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 切り接ぎを実施する場合、穂木と台木の接合面が密着しやすいよう平らに削り、絶縁テープで強めに結束する。
2. 挿し木培地の温度が20℃程度であれば約30日で発芽、発根が始まる。
3. ポリポットなどの容器で育苗すれば植傷みしにくくなる。

[具体的データ]

表1 接ぎ木方法と挿し木の育成²

接ぎ木方法	供試本数 (本)	台木の太さ (mm)	発根数 (本/本)	展葉数 (枚/本)	活着率 (%)
切り接ぎ	7	19	27	4.9	100
削ぎ接ぎ	46	20	18	0.8	27
割り接ぎ	5	19	10	0.6	0

² 供試品種は穂、台木とも「榊井ドーフィン」



図1 切り接ぎ

表2 培地資材と挿し木の生育

培地	供試本数 ² (本)	台木の太さ (mm)	発根数 (本)
おがくず	9	20	16
パーライト	11	20	18
水苔	16	20	21
ミックスポート	10	19	15

² 供試品種は穂、台木とも「榊井ドーフィン」
で接ぎ木方法は削ぎ接ぎとした

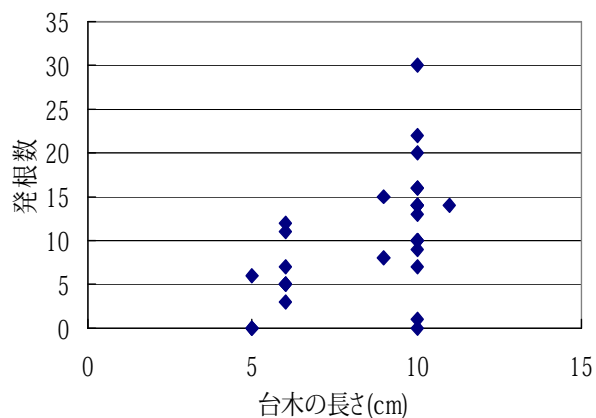


図2 台木の長さとの発根数の関係
注) 供試品種は穂木、台木とも「榊井ドーフィン」で接ぎ木方法は切り接ぎとした

表3 接ぎ挿しにおける台木品種別
接ぎ木苗の大きさと成苗率

台木品種	苗長 (cm)	葉数 (枚)	成苗率 (%)
セレスト	24	10.5	91
ボルディドネグロ	32	12.6	83
イスキヤ・ブラック	26	13.1	84
キング	27	11.8	90

注) 穂木は全て「榊井ドーフィン」

接ぎ挿し：4月18日、苗調査：7月26日

接ぎ木方法は切り接ぎ

[その他]

試験研究課題・事業名：接ぎ挿しによるイチジク接ぎ木苗の効率的育成技術

予算区分：県単

研究期間：平成18年度

関連情報等：平成16年度近畿中国四国研究成果情報p369～370

// 17年度

//

p337～338

